

格段にわかりやすくなった 『ベーシックジーニアス英和 辞典 第2版』

原川博善



■くり返し、引いて、読んでほしい

今は紙の辞書と電子媒体の辞書が利用できる時代。私の若い頃はもちろん紙辞書のみ。初めて手にした時の感触、紙のにおい、やる気が湧いたことを思い出します。

この頃は、はじめから電子媒体の辞書を使う生徒も多いと聞きます。しかし、まずは紙辞書から始めてほしいものです。紙の辞書には、ページが一覧できる良さがあり、下線を引き、余白に書き込み、付箋をつけるなど学びの跡が記録でき、身につくことが実感されます。電子媒体辞書はあるレベルに達してから使えば一層習得がすすむでしょう。

この辞書で、辞書の引き方と引いて学ぶ楽しさをぜひ生徒にお伝えください。ページが反りかえるほど読み込む生徒が現われることを願っております。

■改訂のねらい

改訂の主なねらいは次の5点です。

1. 収録語彙と語の重要度表示の見直し
2. 語のイメージをつかみやすくするための工夫
3. 語義区分の見直し・用例の刷新
4. 見やすい紙面
5. 充実した関連情報と巻末付録

■「英語学習の旅」のガイドブック

学習用辞書には必要な語彙とその情報（つづり、発音、語形変化、品詞、語義、文法的特徴、用例など）が過不足なくわかりやすく記述されてい

ることが求められます。

そこで、収録語彙を全面的に見直し、現在の英語を正しく反映するようにアップデートしました。併せて語の重要度表示を初版の3段階から5段階に変更して習得レベルを明確にしました（詳しくは関山健治（pp.6-7）参照）。

「見やすい」レイアウトで、「わかりやすく」書かれていることが親しみをおぼえる上で大切です。重要語、重要語義や品詞記号、語義番号、カタカナ表記の第1アクセントなどに太字、色文字を用い、随所にコラムを配置して、格段に見やすい紙面になりました。

■入門期の辞書指導

「英語学習の旅」のガイド役として、辞書の使い方と早く引くコツがわかる「英語の入口」を設けました。まずここを生徒とお読みください。使い方がわかれば、生徒は使う習慣も身につけて、効果的に楽しく学習できるでしょう。

■語のイメージをつかむ

意味のわからない単語に出会うと見出しのすぐ近くに挙げられた第1語義しか確認せず、文の意味がとれなくなる生徒がみられます。

特に複数の重要語義や品詞がある重要語については「ベーシック単語カード」という欄を設けました。最初にここを確認することで、単語が1つの訳語だけでなく、様々な意味と使い方を持つものであることを確認できるでしょう。

また、前置詞、動詞などに基本的な意味がイメ

ージできるイラストを添えました（これらに関しては畠山利一（pp.4-5）参照）。

■一歩踏み込んで

意味のよく似た語や表現に出会うと、その違いや使い方をもっと知りたいという気になるものです。授業を先に進めたい思いを抑えて生徒と一緒に辞書で確かめることがあるかと思います。そのようなときに活かせるコラムとして、【似た語】【使い方】（下図①）、【使い分け】（同②）、【ここに注目！】（本誌 p. 13）などを随所に設けています。

■関連情報、文化背景を知る楽しさ

語の文化背景、日英語のずれなど、語に関するいろいろなことがらを知ることで、外国語学習が単に言葉を学ぶ以上の異文化理解にもつながるでしょう。【文化】（下図③④）、【表現】（同⑤）、【関

連】（同⑥）、【事情】（同⑦）などのコラムで扱っています。

また、語の関連性を気づかせるコラムとして【Quiz!】（本誌 p. 9）、【なるほど単語情報】（下図⑧）、【一緒に覚えよう！】（本誌 p. 12）なども掲載しています。

■発信に役立つ情報

用例は、やさしい語と構文で具体的にイメージできるもの、また生徒の生活に身近な話題を取り入れました。実際に使える短い対話例を数多く挙げました。巻末付録「和英小辞典」を発信の補助ツールとしてご活用ください（p. 10参照）。

このようにさまざまな工夫、情報が満載の『ベーシックジーニアス英和辞典』は、生徒の興味と学習意欲を大いに刺激するものと確信しています。（はらかわ ひろよし・元平安女学院大学短期大学部教授）

◆『ベーシックジーニアス英和辞典 第2版』の多彩なコラム◆

①〈使い方〉

【forget】

使い方 「置き忘れた」は I left my textbook in the library. (教科書を図書館に忘れた)と leave を用いる。場所を示さないで単に「忘れた」は I forgot my textbook. (教科書を忘れた)のように forget を用いる。

②〈使い分け〉

【excuse】

使い分け ▶ 「許す」

excuse ささいな過ちや失礼を許す
forgive 重大な過失を非難しないで許す

③〈文化の背景〉

【thirteen】

文化 キリストの最後の晩餐(6)のときの人数が13人だったことから、縁起が悪く、死・破壊・不幸を意味する数と見なし、病院・ホテルなどでは部屋番号から13を除くことがある。

④〈文化の背景〉

【sneeze】

文化 (1) くしゃみの音の「はくしょん!」は英語では Atchoo! などと表す。
(2) 英米では、昔の言い伝えでくしゃみは神からの警告の合図とされることから、くしゃみをした人は Bless [God bless] you! (神のご加護を!)と言われることがある。「お大事に!」くらいのあいさつで、言われた人は Thank you. と答えるのがふつう。

⑤〈日英語のずれ〉

【service】

表現 service と「サービス」
service には日本語「サービス」の「おまけ」「値引き」の意味はない。それらの意味で次のように service を使わずに表現する。

・When I bought five potatoes at the store, they gave me one more for free. その店でジャガイモを5個買ったから1個サービスしてくれた [=もう1個ただでくれた].

⑥〈関連表現〉

【taste】

関連 味の形容詞
salty 塩辛い
sweet 甘い
bitter 苦い
sour すっぱい
hot (香辛料が効いて)辛い

⑦〈米英事情〉

【address】

事情 住所の書き方 米英の住所は、戸番、通りの名、都市名、州名、郵便番号(米) zip code, (英) postcode)の順に書く。例: 125 Fifth Avenue, New York, NY 10010

⑧〈単語の知識〉

【onion と union】

なるほど単語情報

onion と union onion 「タマネギ」は、「結合」「(国々の)連邦」など1つにまとまることを意味する union と同じ語源。タマネギはいくつもの層が1つにまとまった形になっているから。